



## 【事例 4】 大多喜町：部田区環境保全組合

### 1. 組織の概要

認定(協定締結)年度	認定面積(ha)	構成員	集落数
平成 19 年度	10ha (田:10ha)	農業者 3 名、 4 団体、19 人	1

### 2. 地区の概要

部田地区は大多喜町の中央部に位置し、いすみ鉄道の東総元駅手前約 1 キロの場所に位置する水田地帯です。

昭和 50 年から 55 年にかけて基盤整備が行われ、省力化した稲作栽培が行われています。

年間を通し自然水利に恵まれた、のどかな農地です。



隧道点検前の集合写真

### 3. 合意形成の経緯と組織の運営

本活動組織は、行政からの説明会を受けて立ち上げ、一集落で構成されています。

当該地区は、農業用水を夷隅川に求め<sup>ずいどう</sup>隧道を開鑿<sup>かいさく</sup>引水し、大正時代末から夷隅川の自然流水の導入により水源を求めていることから、当時区内総会で「農地・水・環境保全向上対策事業」を受け入れることによる農地保全活動に抵抗はなく、区民全員の同意を得ることができ、水利組合、農家組合が中心となり活動することとなりました。



桜並木を散策する観光客



植樹祭集合写真

#### 4. 特徴的な活動について



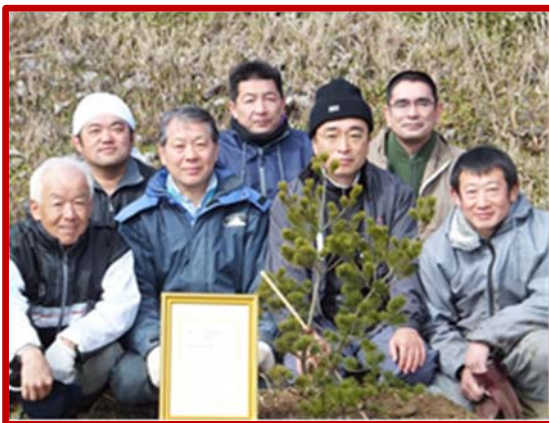
宝くじ桜記念碑前で記念写真

本組織では、結成の翌年から桜の植樹、菜の花の育成を行い、いすみ鉄道とのコントラストを観光客に楽しんでもらおうと農用地周辺と鉄道沿線の景観づくりを始め、平成 28 年度には、公益社団法人日本さくらの会から、宝くじ桜（陽光桜）50 本の寄贈を受け農道周辺に植樹を行いました。

結成当時植樹した桜は今では大きく育ち、春には多くの観光客を出迎えています。

本組織は、桜以外に県が平成 14 年度に最重要保護生物に指定した、ヒメコマツ（別名、五葉松）のを知り、平成 28 年 2 月に無償配布を受け「千葉県ヒメコマツ系統保存サポーター」として認定を受けて、農用地周辺に植樹し、育ての親として環境保全、景観形成に力を入れています。

また、昔は各々の家庭で作っていたお正月のお飾り作りの伝統を絶やすことなく、次世代に継承しようと毎年 12 月に地元のおじいさん、おばあさんを講師に招き、お飾りを手作りする技術を学ぶなど、草刈りや泥上げ以外でも地元への貢献が光っています。今では都会からの移住者も保全活動に加わり活動するようになりました。



ヒメコマツ保存認定書を前に記念写真



お飾り作りの継承

#### 5. 今後の活動について

当地区でも少子高齢化が進み、保全組合を立ち上げた当初より高齢化が進んでいます。

しかし、区内に小規模ながら営農組合が組織されており、また集落内に辛うじて専業農家も存在することから、不在地主や土地持ち非農家の農地の貸し借りを積極的に行い、専業農家と当該組織との連携を図り、遊休農地の発生を未然に防止するとともに、耕作者の経営の安定化を図っています。



撮り鉄風景